

教育研究業績書

2023年10月23日

所属： 幼児教育学科

資格： 准教授

氏名： 西村 真実

研究分野	研究内容のキーワード
保育学	乳児保育（3歳未満児を対象とした保育），育児担当制
学位	最終学歴
修士	大阪市立大学大学院生活科学研究科

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. zoomを用いた保育見学および現役保育者との交流	2021年6月～現在	乳児保育Ⅱでは、zoomを活用して遠隔地（北九州市）の保育所を見学し、優れた保育実践と環境構成について詳細な解説を行った。ゼミナールⅢ（4年生科目）および保育実習事前事後指導Ⅰ（2年生科目）では、zoomを用いて現役保育者との交流を持ち、保育現場の状況と保育者の業務について学生の理解を深めた。
2. 相互教授型ジグソー法によるグループ学習と発表	2013年9月～現在	子育て支援論や乳児保育Ⅱでは、グループで与えられたテーマについて発表を行った後、各テーマの関連と全体像について解説を行い、包括的理解を促した。
3. おもちゃを使った遊び体験と保育内容理解	2013年9月～現在	乳児保育Ⅱおよび保育内容（人間関係）では、学生がおもちゃを用いた遊びを体験した後に、グループで遊びに内在する保育所保育指針・幼稚園教育要領等に示された保育内容（5領域・乳児保育）を抽出し、各項目の関連と、小学校学習指導要領（低学年）へのつながりについて理解を深めた。
2 作成した教科書、教材		
1. 新・基本保育シリーズ 乳児保育Ⅰ・Ⅱ（共著/中央法規）	2018年4月1日	保育所保育指針の改定に伴う保育士養成課程の改定で、必修科目として位置付けられる「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」テキストとして作成された。総頁378頁。執筆部分：第7講 0歳児・1歳以上3歳未満児（満3歳含む）の生活と環境（p.81-90）児童育成協会監修、編者：大方美香、寺田清美、塩谷香
2. 基本保育シリーズ乳児保育（共著/中央法規）	2015年12月	保育士養成課程において必修科目として位置付けられる「乳児保育」テキストとして作成された。総頁190頁。執筆部分：6か月未満児の発達と保育内容（p.73-83） 6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容（p.85-96） 1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容（p.97-107） 2歳児の発達と保育内容（p.108-119）総頁190頁。児童育成協会監修、編者：大方美香、寺田清美、塩谷香
3. 乳児保育一人ひとりの乳児期の育ちを支えるために（共著/あいり出版）	2011年4月	保育士養成課程において必修科目として位置付けられる「乳児保育」テキストとして作成されたテキスト。 総ページ159頁。執筆部分：第4章乳児保育の実際2個々の発達をうながす生活と遊びの環境（p.116-129） 編著：大方美香、中西利恵
4. 保育相談支援	2011年3月	平成23年度より保育士養成課程に必修科目として位置づけられた新規科目である保育相談支援のモデルテキストとして作成された。担当章では保育所入所児童の保護者支援について、具体的な事例を挙げながら場面や手段、評価について解説を行う。さらに特別な対応を必要とする家庭に対する支援についても具体的に言及した。 総頁169頁 執筆部分：第5章保育所入所児童の保護者への保育相談支援（p.85-113.） 編著：柏女霊峰、橋本真紀

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
5. よくわかる家庭支援論	2011年3月	保育士養成課程の改定に合わせて、「よくわかる家族援助論」に加筆修正を加え再構成したテキスト。 総頁204頁 執筆部分：「保育所保育指針と幼稚園教育要領における家庭支援」(p.36-37)、Ⅲ5「家庭支援における保育士の姿勢」(p.42-43)、Ⅶ1-3、7「保育所・幼稚園における家族援助の姿勢」(p.44-45)、「保育所・幼稚園における家族援助の方法」(p.46-49)、「保育所・幼稚園における家族援助の手段」(p.50-52)、「家族援助という視点からの保育業務の再検討」(p.64-65) 編者：橋本真紀、山縣文治
6. 障害児保育の理論と実践—インクルーシブ保育の実現に向けて	2010年3月	障害児保育の実施にあたって、必要となる保護者との連携について、改定保育所保育指針の趣旨および改定点を踏まえて論述したもの。 総頁197頁 執筆部分：第6章保育所における保護者との連携 p.150-171 編者：堀智晴、橋本好市
7. 社会福祉援助技術・保育者としての家族支援	2009年4月	保育所保育指針の改定を受け、今日の保育士に求められる援助業務に関する知識を体系的に学ぶために作成された教科書。社会福祉専門職の一端を担う保育士に求められる価値・倫理および、それらに則って行う保護者支援業務の実際について論述。 総頁176頁 執筆部分：7章「保育士としての専門性と社会福祉援助技術」p.147-166。 編著：柏女霊峰、伊藤嘉余子
8. よくわかる家族援助論	2007年4月	近年、子育て支援を担う保育士養成の必修科目として位置づけられた「家族援助論」を体系的に学び、保育士の役割をより明確に理解するために活用されるテキストとして作成された教科書。 総頁205頁
9. よくわかる子ども家庭福祉第3版	2005年4月	子ども家庭福祉の初学者対象とし、子ども家庭福祉を学ぶ際にポイントとなる項目を解説し、全体で社会福祉の大枠を理解できるよう編集された教科書。 総頁228頁
10. よくわかる社会福祉第3版	2005年4月	社会福祉の初学者対象とし、社会福祉を学ぶ際にポイントとなる項目を解説し、全体で社会福祉の大枠を理解できるよう編集された教科書。 総頁：208頁
11. 保育用語辞典第5版	2004年5月	近年の動向を踏まえ、保育について用いられる用語の明確な概念規定や解説を行うことで、その理解の一助とし、保育学習や実践の場で、それらの総合的理解が図られながら活用される辞典として作成された。
12. 社会福祉用語辞典第4版	2004年4月	社会福祉が大きく再構築される中、社会福祉基礎構造改革をはじめ、次世代育成支援対策推進法の制定などの動向を踏まえ、学生から行政、実務担当者まで活用しうる有益で利用可能性の高い辞典として作成された。 総頁373頁
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 豊中市立保育所における正規職員としての保育経験	1988年4月1日2003年3月31日	各年齢(0歳～5歳)での担任経験12年およびフリー保育士経験3年
4 その他		
1. 保育士等キャリアアップ研修「乳児保育」講師	2019年～現在	神戸市、姫路市、東京都、奈良県他
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 社団法人全国保育士養成協議会 児童福祉施設福祉サービス第三者評価・評価調査者認定証	2006年7月	
2. 保育士登録	2003年12月	
3. 実用英語検定 準一級	1998年12月	
4. 保母資格	1988年3月	
5. 幼稚園教諭二級免許	1988年3月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 豊中市立保育所における正規職員としての保育経験	1988年4月1日2003年3月31日	各年齢（0歳～5歳）での担任経験12年およびフリー保育士経験3年
4 その他		
1. 八尾市 令和5年度 幼児教育研修 講師	2023年6月5日	演題「乳児保育で大切にしたいこと」
2. 三田市立三田保育所 所内研修 講師	2023年5月22日	演題「育児担当制が育む力」
3. 奈良県 認定保育士Grade3研修 講師	2023年2月21日	演題「保育所保育指針・各論」
4. こどものとも社主催 オンライン園内研修 講師	2023年2月4日	演題「いま、乳児保育に求められるもの～育児担当制が育てるもの、育むもの～」
5. 稲美町主催 保育士等キャリアアップ研修「乳児保育」講師	2022年11月25日12月16日	全15回担当
6. 由利本荘市保育協議会主催 保育士研修 講師	2022年11月18日	演題「乳児への適切な関わり」
7. 新潟市主催 新潟市保育施設合同研修会（乳児保育）	2022年10月14日	演題「育児担当制による乳児保育」
8. 埼玉県保育協議会主催 令和4年度乳児保育研修 講師	2022年8月10日	演題「育児担当制による乳児保育」
9. 会津若松市保育士会主催 令和4年度会津若松市保育士会研修会 講師	2022年7月9日	演題「育児担当制による乳児保育」
10. 岐阜県社会福祉協議会・岐阜県保育研究協議会・恵那市主催 第59回岐阜県保育研究大会 講演	2022年7月1日7月31日	演題「育児担当制による乳児保育」
11. かほく市保育士会職員研修 講師	2022年1月29日	演題「育児担当制による乳児保育」
12. 奈良県民間保育園連盟主催 保育士等キャリアアップ研修「乳児保育」講師	2021年12月7日2022年2月10日	全15回担当
13. 新潟市合同研修会 講師	2021年11月12日	演題「育児担当制による乳児保育」
14. 白山市保育士会保育研修会 講師	2021年9月4日	演題「育児担当制による乳児保育」
15. 金沢市保育所（園）・認定こども園・幼稚園職員研修会 乳児保育研修「乳児保育2」 講師	2021年6月4日	演題「育児担当制による乳児保育」
16. 札幌第一こどものとも社主催 保育実践セミナー「0・1・2歳児の保育の基本」 講師	2021年5月14日11月19日	全4回担当
17. 姫路市 保育士等再就職支援研修会 講師	2020年11月9日	演題「保育のこれから」
18. 養父市 保育教諭等リモート研修会 講師	2020年11月7日	演題「育児担当制による乳児保育」
19. 札幌第一こどものとも社主催 保育実践セミナー2 乳児の気持ちを知るヒント第3回 講師	2020年9月19日	演題「育児担当制による乳児保育」
20. 金沢市保育所（園）・認定こども園・幼稚園職員研修会 乳児保育研修 講師	2020年8月11日	演題：子どもの育ちを支える乳児保育の実践
21. 令和元年度ベビーシッター養成研修会 講師	2019年11月27日	演題：乳幼児の生活と遊び、乳幼児の発達Ⅰー乳幼児の発達と心理
22. 令和元年度奈良県保育協議会保育士部会第3回研修会 講師	2019年11月16日	演題：乳児保育における育児担当制
23. 姫路市 保育士等再就職支援研修会 講師	2019年11月11日	演題：保育のこれから
24. 養父市 保育教諭等研修会 講師	2019年10月5日	演題：育児担当制による乳児保育
25. 全国保育サービス協会 平成29年度ベビーシッター養成研修会 講師	2019年9月17日	演題：乳幼児の生活と遊び、乳幼児の発達Ⅰー乳幼児の発達と心理
26. 2019年度全国保育士養成セミナー 分科会司会者	2019年8月30日	第5分科会 保育評価の意義と方法ー保育の質向上のための循環をつくるー
27. 平成31年度三田市保育士等キャリアアップ研修 講師	2019年8月25日	演題：乳児への適切ななかかわり
28. 奈良県令和元年度認定保育士Grade3研修 講師	2019年8月14日	演題：保育所保育指針（各論）
29. 令和元年度姫路市保育士等キャリアアップ研修（乳児保育分野）講師	2019年7月19日～	全15回担当
30. 岐阜県民間保育園・認定こども園連盟主催 保育士等キャリアアップ研修 講師	2019年7月13日	演題：「乳児保育の意義」、「乳児への適切な関わり」

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
31. 姫路市 保育士・保育教諭研修 講師	2019年6月26日	演題：乳幼児期全体を通して3つの資質・能力を育むために
32. 川西市 保育所・認定こども園職員研修 講師	2019年6月7日	公開保育と事後指導
33. 大阪府社会福祉協議会平成31年度教育・保育施設課程研修保育士・保育教諭のためのスキルアップ研修会 講師	2019年5月30日	演題：乳児保育の基礎～子どもの育ちと関わりについて～
34. 平成30年度奈良県保育協議会保育士部会第3回研修会 講師	2018年12月22日	演題：保育所保育指針改定と3歳未満児の保育のこれから
35. 豊中市 家庭保育所・認可外保育施設職員人権研修 講師	2018年12月10日	演題：保育所保育指針改定と3歳未満児の保育のこれから
36. 日本保育協会 平成30年度乳児保育担当者研修会 講師	2018年11月30日	演題：乳幼児の発達に応じた保育内容
37. 姫路市 保育士の職場復帰を支援する研修会 講師	2018年11月12日	演題：保育のこれから
38. 奈良市保育士部会研修会 講師	2018年9月22日	演題：乳児の発達に応じた環境や援助について
39. 全国保育サービス協会 平成29年度ベビーシッター養成研修会 講師	2018年9月20日	演題：乳幼児の生活と遊び、乳幼児の発達Ⅰー乳幼児の発達と心理
40. 尼崎市 平成30年度地域型保育事業現任研修 講師	2018年9月20日	演題：3歳未満児の発達と遊びの環境
41. 奈良県平成30年度認定保育士Grade3研修 講師	2018年9月18日	演題：保育所保育指針（各論）
42. 三田市 乳幼児保育研修会	2018年8月17日	演題：3歳未満児の保育のこれから
43. 平成30年度大阪府社会福祉協議会主催「0,1,2歳児保育専門ゼミナール」 講師	2018年6月15日	演題：担当制/愛着形成
44. 日本保育協会 平成30年度乳児保育担当者研修会 講師	2018年6月8日	演題：乳幼児の発達に応じた保育内容
45. 大阪府社会福祉協議会 平成30年度教育・保育施設課程研修 保育士・保育教諭のためのスキルアップ研修会 講師	2018年6月1日～	演題：乳児保育の基礎～子どもの育ちとかかわりについて～
46. 大阪府社会福祉協議会 平成29年度教育・保育施設課程研修 保育士・保育教諭のためのスキルアップ研修会 講師	2018年6月1日	演題：乳児保育の基礎～子どもの育ちとかかわりについて～
47. 川西市 保育所・認定こども園職員研修会 講師	2018年5月25日	公開保育と事後指導等
48. 名古屋コダーイセンター 秋の学習会 講師	2017年11月26日	演題：保育所保育指針改定
49. 神戸市 平成29年度公立保育所所長研修会 講師	2017年11月1日	演題：保育所保育指針改定と3歳未満児の保育のこれから
50. 山口県子育て支援員研修 講師	2017年10月14日	演題：安全の確保とリスクマネジメント
51. 全国保育サービス協会 平成29年度ベビーシッター養成研修会 講師	2017年9月27日	演題：乳幼児の生活と遊び、乳幼児の発達Ⅰー乳幼児の発達と心理
52. 三田市 資質向上研修会（3歳未満児の発達援助）講師	2017年7月14日	演題：3歳未満児の保育における担当制のあり方
53. 大阪府社会福祉協議会 平成29年度教育・保育施設課程研修 保育士・保育教諭のためのスキルアップ研修会 講師	2017年6月2日	演題：乳児保育の基礎～子どもの育ちとかかわりについて～
54. 奈良県 認定保育士Grade3研修 講師	2017年1月28日	演題：0～5歳児の指導計画・作成
55. 旭川市民間保育所相互育成会主催研修会 講師	2016年7月15日	演題：乳幼児期の心の発達と保育者の役割
56. 川西市 保育所職員研修会 講師	2016年5月27日	公開保育と事後指導等
57. 平成27年度 山口県子育て支援員研修 講師	2016年2月28日	演題：乳幼児の生活と遊び、地域保育の環境整備、地域型保育の保育内容
58. 尼崎市 平成27年度保育所職員専門研修	2016年2月20日	演題：乳児保育の意義と乳幼児期の心の発達を支える保育士の関わり方
59. 西宮市 スマイル研修	2015年12月4日	演題：乳児保育の基本について
60. 尼崎市 平成27年度地域型保育事業現任者研修 講師	2015年11月24日	演題：乳児保育の意義と乳幼児期の心の発達を支える保育士の関わり方
61. 西宮市 保育所職員専門研修・現任研修	2015年10月30日	演題：「乳児保育の基本について」
62. 旭川市民間保育所相互育成会主催研修会 講師	2015年8月7日	演題：乳幼児期の心の発達と保育者の役割
63. 尼崎市 保育所職員専門研修 講師	2015年7月24日	演題：「乳児の発達と環境について」
64. 西宮市 副保育所町研修 講師	2015年6月30日	演題：保育評価指標について
65. 川西市 保育所職員研修会 講師	2015年6月19日	公開保育と事後指導等
66. 大津市「就学前の保育・教育の在り方を考える」研修会 講師	2014年12月5日	演題：「就学前の保育・教育の在り方を考える～質の高い保育実践をめざして～
67. 伊丹市公立保育所実地指導 講師	2014年10月31日	「自己表現し、意欲的に遊べる環境構成と援助の工夫」

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
68.平成26年度家庭的保育現任研修 講師	2014年10月12日	講座11「実践！保育室の工夫」
69.平成26年愛媛県0・1歳児保育研修会 講師	2014年9月26日	演題：3歳未満児保育の専門性
70.川西市 保育所職員研修会 講師	2014年6月19日	公開保育と事後指導等
71.日本保育協会 平成26年度保育所乳児保育担当者研修 講師	2014年6月6日	演題：乳幼児期の心の発達と保育者の役割
72.日本保育協会 保育所主任保育士研修会 講師	2013年12月6日	演題：子どもの発達保障と保育者
73.西宮市 子育て講座 講師	2013年11月12日	演題：いつまでつづくの？イヤイヤ期
74.日本保育協会 保育所主任保育士研修会 講師	2013年7月19日	演題：子どもの発達保障と保育者
75.川西市 保育所職員研修会 講師	2013年6月12日	公開保育と事後指導等
76.西宮市 第三者評価保育指標研修 講師	2013年3月4日	演題：西宮市公立保育所保育評価指標における保育評価について 実践報告への助言・指導
77.西宮市保育所職員専門研修・西宮市保育所保育研究会 0、1、2歳クラス 講師	2013年2月8日	演題：「乳児保育について」 「子どもの発達を保障した保育」「保育者論」
78.尼崎市 Cブロック保育所職場研修 講師	2013年1月15日	演題：「乳児保育について」
79.日本保育協会 平成24年度保育所主任保育士研修会 講師	2012年12月6日	演題：「乳児保育について」
80.尼崎市平成24年度Cブロック保育所職場研修講師	2012年11月30日～2013年1月15日	演題：「乳児保育について」
81.尼崎市 Cブロック保育所職場研修 講師	2012年11月30日	演題：「乳児保育について」
82.川西市保育所職員研修会 講師	2012年11月6日	演題：「子どもの発達を保障した保育」 実践報告への助言・指導
83.西宮市保育所職員専門研修・西宮市保育所保育研究会 0、1、2歳クラス	2012年10月26日～11月9日	公開保育と事後指導等 「乳児保育における環境と保育士の援助」 実践報告への助言・指導
84.川西市公立保育所職員研修会 講師	2012年6月19日	公開保育と事後指導等
85.第2回西宮市スマイル研修 講師	2012年6月15日	「乳児保育における環境と保育士の援助」 実践報告への助言・指導
86.西宮市保育所職員専門研修・西宮市保育所保育研究会 0、1、2歳クラス	2012年6月12日～7月17日	実践報告への助言・指導
87.西宮市保育所職員専門研修・西宮市保育所保育研究会 0、1、2歳クラス	2012年2月14日	実践報告への助言・指導
88.西宮市厚生員職員研修講師	2011年11月17日～11月24日	演題：「就園前の子どもの育ち」
89.九州私立保育園連盟 第30回九州私立保育園研究大会北九州大会	2011年11月17日	第2分科会「保育指針に基づく主体的な保育の振り返り」助言者
90.西宮市保育所職員専門研修・西宮市保育所保育研究会講師	2011年11月1日～11月22日	演題：「0、1、2歳クラスにおける環境と保育士の援助」
91.西宮市公立保育所「保育サービス評価」指標研修 講師	2011年9月26日～2012年1月26日	演題：「西宮市公立保育所における保育評価指標」
92.東大阪市 保育士対象研修会 講師	2011年9月2日	演題：「乳児保育・実践と内容」
93.日本保育協会 平成23年度北信越・東海地区保育所主任保育士（初任者指導保育士）研修会講師	2011年7月28日	演題：「保育所の保育相談支援」
94.西宮市子育て総合センター子育て講座 講師	2011年7月21日	演題：「育つ子どもと一緒に歩む」
95.西宮市保育所職員専門研修・西宮市保育所保育研究会講師	2011年6月21日～7月12日	「0、1、2歳クラスにおける環境と保育士の援助」 実践報告と助言
96.日本保育協会 平成23年度保育所乳児保育担当者研修会講師	2011年6月15日	「乳児の心身の発達の理解」、「乳児の発達を踏まえた保育実践」
97.貝塚市立浜手地区公民館子育て講座ホップステップジャンプ「あそぶことは生きること」講師	2011年6月10日～6月17日	子どもの育ちを知る①（6月10日） 子どもの育ちを知る②（6月17日）
98.川西市公立保育所職員研修会 講師（6月2日）	2011年6月2日	公開保育と事後指導等
99.西宮市保育所職員専門研修・西宮市保育所保育研究会講師	2011年5月17日	演題：「0、1、2歳クラスにおける環境と保育士の援助」
100.平成22年度第3回現代保育研究所研修会 保育士養成課程の改正をうけて―「保育者論」・「保育相談支援」の教授法の基本と具体的展開― 講師	2011年2月19日	第2分科会「保育相談支援（演習）の教授法」
101.西宮市移動児童館事業・移動児童館子育て広場 講師	2011年2月17日～2月22日	演題：「育つ子どもと一緒に歩む」
102.西宮市立大社児童館 地域子育て創生事業・子育て広場事業講師	2011年2月16日～3月2日	演題：「育つ子どもと一緒に歩む」
103.西宮市チーム保育所研修講師	2011年2月14日～2月15日	演題：「乳児保育について2」
104.西宮市立保育所における保育サービス評価についての研修 講師	2011年1月24日2月21日	演題：「西宮市公立保育所における保育評価指標」
105.西宮市厚生員職員研修 講師	2010年11月17日～11月24日	演題：「就園前の子どもの育ち」
106.西宮市チーム保育所研修講師	2010年9月13日～12月10日	演題：「乳児保育について」

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
107. 厚生労働省「児童育成事業推進対策事業」熊本市保育園連盟青年部特別セミナー 講師	2010年1月	分科会「保育課程一発達の連続性の捉え方」
108. 木更津市保育協議会主催 保育士研修講師	2009年6月	演題：「保育所保育指針解説」

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 育児担当制による乳児保育 実践編 一人ひとりへの生活・発達・遊びの援助	単	2021年8月16日	中央法規	既刊「育児担当制による乳児保育子どもの育ちを支える保育実践」の続編として企画・出版された。乳児保育の手法である育児担当制による保育実践について、カラー写真をふんだんに用いて詳細に解説を行った。特に、子どもの一日の生活の流れを構造化する「流れる日課」の構成と、保育者の直接的関与と保育環境構成の関連、そして保育者間の協働を重点的に扱った。総頁127頁。
2. 担当制で進める0・1・2歳児の保育の基本	単	2020年10月4日	ひかりのくに	乳児保育（出版社の意向により「0・1・2歳児の保育」と呼称）の基本について、その考え方と手法を初学者にもわかりやすく解説した。本書はからひかりのくに「保育とカリキュラム」で主として2018年度以降に連載した内容を元に加筆修正を加えたものである。総頁119頁。
3. 育児担当制による乳児保育 子どもの育ちを支える保育実践	単	2019年5月16日	中央法規	乳児保育における担当制は、明確な定義づけがなされておらず、各園の解釈によって実施されている。ここでは、「育児担当制」に焦点を当て、その特性を示しながら実施の手法について詳細に解説を行った。乳児保育の実践手法である「担当制」を解説する本邦初の図書。総頁119頁。
4. 新・基本保育シリーズ 乳児保育Ⅰ・Ⅱ	共	2018年4月1日	中央法規	保育所保育指針の改定に伴う保育士養成課程の改定で、必修科目として位置付けられる「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」テキストとして作成された。総頁378頁。執筆部分：第7講 0歳児・1歳以上3歳未満児（満3歳含む）の生活と環境（p.81-90）児童育成協会監修、編者：大方美香、寺田清美、塩谷香
5. 基本保育シリーズ乳児保育	共	2015年12月1日	中央法規	保育士養成課程において必修科目として位置付けられる「乳児保育」テキストとして作成された。総頁190頁。執筆部分：6か月未満児の発達と保育内容（p.73-83）6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容（p.85-96）1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容（p.97-107）2歳児の発達と保育内容（p.108-119）児童育成協会監修、編者：大方美香、寺田清美、塩谷香
6. 乳児保育一人ひとりの乳児期の育ちを支えるために	共	2011年4月	あいり出版	保育士養成課程において必修科目として位置付けられる「乳児保育」テキストとして作成されたテキスト。総頁159頁。執筆部分：第4章乳児保育の実際 2個々の発達をうながす生活と遊びの環境（p.116-129）
7. よくわかる家庭支援論	共	2011年3月1日	ミネルヴァ書房	編著：大方美香、中西利恵 保育士養成課程の改定に合わせて、「よくわかる家族援助論」に加筆修正を加え再構成したテキスト。総頁204頁 執筆部分：「保育所保育指針と幼稚園教育要領における家庭支援」（p.36-37）、Ⅲ5「家庭支援における保育士の姿勢」（p.4243）、Ⅶ1-3、7「保育所・幼稚園における家族援助の姿勢」（p.44-45）、「保育所・幼稚園における家族援助の方法」（p.46-49）、「保育所・幼稚園における家族援助の手段」（p.50-52）、「家族援助という視点からの保育業務の再検討」（p.64-65）
8. 保育相談支援	共	2011年3月	ミネルヴァ書房	編者：橋本真紀、山縣文治 平成23年度より保育士養成課程に必修科目として位置づけられた新規科目である保育相談支援のモデルテキストとして作成された。担当章では保育所入所児童の保護者支援について、具体的な事例を挙げながら場面や手段、評価について解説を行う。さらに特別な対応を必要とする家庭に対する支援についても具体的に言及した。総頁169頁 執筆部分：第5章保育所入所児童の保護者への保育相談支援（p.85-113.） 編著：柏女霊峰、橋本真紀

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
9. 保護者支援スキルアップ講座 保育者の専門性を生かした保護者支援	共	2010年5月	ひかりのくに	監修：柏女霊峰、編集：橋本真紀、西村真実。（編集および執筆）保育士の専門性を基盤とした保護者支援の技術について、平成20年度～21年度にひかりのくに月刊誌保育とカリキュラム連載内容に加筆、修正を加えた。次年度から保育士養成の新規必修科目となる保育相談支援のテキストもしくはサブテキストとして使用されることを視野に入れて編集された。
10. 障害児保育の理論と実践—インクルーシブ保育の実現に向けて	共	2010年3月	ミネルヴァ書房	編者：堀智晴他。執筆担当 第6章保育所における保護者との連携 障害児保育の実施にあたって、必要となる保護者との連携について、改定保育所保育指針の趣旨および改定点を踏まえて論述したものの。
11. 社会福祉援助技術・保育者としての家族支援	共	2009年4月	樹村房	編著：柏女霊峰、伊藤嘉余子。7章「保育士としての専門性と社会福祉援助技術」社会福祉専門職の一端を担う保育士に求められる価値・倫理および、それらに則って行う保護者支援業務の実践について論述。保育所保育指針の改定を受け、今日の保育士に求められる援助業務に関する知識を体系的に学ぶために作成された教科書。p. 147-166.
12. 事例でわかる 保育所保育指針幼稚園教育要領—保育実践への具体的な活かし方—	共	2009年3月1日	第一法規	p.24-40 編著：柏女霊峰・橋本真紀/無藤隆・神長美津子。保育所保育指針第2編事例と解説保育実践への具体的な展開・第3章「保育の内容」の理解と実践。改定保育所保育指針第3章のポイントについて、事例を提示しながら解説を行った。
13. 保育パワーアップ講座	共	2007年10月	日本小児医事出版社	項目担当第3章1-3。「気になる子ども評価ツールの考え方」（p. 27-29）、「気になる子ども評価ツールのチェックポイント」（p. 31-33）、「気になる子ども評価ツールの活用法」（p.34）。編者：安梅勅江。根拠に基づく保育を実践する上で、評価ツールは不可欠となる。保育を評価するためのツールの必要性とその利用について、解説を行い、保育の質の向上に向けた実践者を育成することを目的に作成された教科書。ここでは近年注目される発達障害を持つ子どもに焦点をあて、保育現場において気になる子どもをどのような視点から評価し、支援が必要だと判断するために用いる評価ツールについての解説を行った。
14. よくわかる家族援助論	共	2007年4月	ミネルヴァ書房	項目担当VIII-3、7「保育所・幼稚園における家族援助の姿勢」（p. 104-105）、「保育所・幼稚園における家族援助の方法」（p.106-109）、「保育所・幼稚園における家族援助の手段」（p.110-111）、「家族援助という視点からの保育業務の再検討」（p.124-125）。編者：橋本真紀、山縣文治。近年、子育て支援を担う保育士養成の必修科目として位置づけられた「家族援助論」を体系的に学び、保育士の役割をより明確に理解するために活用されるテキストとして作成された教科書。
15. よくわかる社会福祉第3版	共	2005年4月1日	ミネルヴァ書房	項目担当 VIII-4「2000年以降の児童福祉法改正」p.128-129、VIII-7「次世代育成支援と子ども・子育て応援プラン」p.134-p.137。編者：山縣文治・岡田忠克 社会福祉の初学者対象とし、社会福祉を学ぶ際にポイントとなる項目を解説し、全体で社会福祉の大枠を理解できるよう編集された教科書。
16. よくわかる子ども家庭福祉第3版	共	2005年4月1日	ミネルヴァ書房	項目担当 II-5「子ども・子育て応援プランの背景と内容」p.24-27。編者：山縣文治 子ども家庭福祉の初学者対象とし、子ども家庭福祉を学ぶ際にポイントとなる項目を解説し、全体で社会福祉の大枠を理解できるよう編集された教科書。
17. 保育用語辞典第3版	共	2004年5月1日	ミネルヴァ書房	項目担当 「特定保育事業」p.38 編者：森上史朗・柏女霊峰 近年の動向を踏まえ、保育について用いられる用語の明確な概念規定や解説を行うことで、その理解の一助とし、保育学習や実践の場で、それらの総合的理解が図られながら活用されうる辞典として作成された。
18. 社会福祉用語辞典第4版	共	2004年4月1日	ミネルヴァ書房	項目担当 「作業定義」「作業仮説」p.114、「特定保育事業」p.269、「保育ママ」p.321。編集代表：山縣文治・柏女霊峰 社会福祉が大きく再構築される中、社会福祉基礎構造改革をはじめ、次世代育成支援対策推進法の制定などの動向を踏まえ、学生から行政、実務担当者まで活用しうる有益で利用可能性の高い辞典として作成された。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
1. 保育所における地域子育て支援事業の今後の展開と現代の保育所像（修士論文）	単	2005年4月	大阪市立大学大学院	エンゼルプラン策定以降、保育所においても地域子育て支援事業の展開が求められる。従来からの保育機能に加え、地域子育て支援事業を実施している保育所の現状から、その特性をふまえ、現代の保育所像について考察を行った。
3 学術論文				
1. 保育の活動を考慮した保育室の音環境の分析	共	2020年3月	平安女学院大学研究年報20	本研究では、保育時間中の保育室内の音の観測データと子どもの行動を分析し、保育活動が保育中の音環境にどのような影響があるかを把握した。幼稚園型認定こども園の年長と年中の5つの保育室から得られた結果は、保育活動別の平均の等価騒音レベル（LAeq）で最低は、「絵本の読み聞かせ（66.5dB）」、最高は「ピアノ演奏（80.2dB）」であった。園において子どもが長時間にわたり騒音下で生活することは改善していく必要があり、子どもと保育者の聴覚の保護の観点から保育者が音環境の配慮をして保育活動の改善が必要であることが示唆された。岩淵善美、埋橋玲子、西村真実、嶋田容子。p.53-64
2. 保育実用図書に示された3歳未満児の遊びについての考察：保育所保育指針2008年改定前後のコンテンツの比較から（閲読あり）	単	2020年3月	帝塚山大学子育て支援センター紀要1	保育者向けに出版された遊びをテーマとする保育図書のコンテンツを分析した。その結果、保育所保育指針改定後の図書に示された遊びは、改定前に比べて集団志向と保育者主導のものが増加し、個人遊びが子どもが主導する遊びが減少する傾向にあった。p.39-49
3. 保育士養成課程における施設実習の現状と課題（2）	共	2020年2月	帝塚山大学教育学部紀要1	本稿では、本学の保育実習事前事後指導Ⅱの事前学習において到達目標がどの程度達成されているか、それが施設実習の自己評価にどう関係しているかを検討した。さらに保育実習事前事後指導Ⅱの授業および課題以外の自主学習の取り組みの程度についても検討した。今回の調査結果は保育実習事前事後指導Ⅱの事前指導の授業内容に関して示唆を与えるものも多々あった。この結果をもとに事前指導の授業内容についてさらに検討を重ねていきたい。p.1-8
4. 3歳未満児の保育における担当制の運営実態についての考察（閲読あり）	単	2019年3月	帝塚山大学現代生活学部子育て支援センター紀要4	2018年度に日本保育協会が主催した乳児保育担当者研修において実施したアンケート調査から、担当制の実施について、担当者の担う業務および形態について分析を行った。その結果、担当制を実施している場合の業務に事務業務の回答率が高く、「担当制」について共通理解がなされていないことが懸念された。特定の保育上が子どもにかかわろうとする努力が認められる一方で、「フレキシブルな対応」の回答率が高く、「担当制」とはどのような援助の形態を示すのか、共通理解を持つための定義づけが必要であると考えられた。p.87-95
5. 保育士養成課程における施設実習の現状と課題	共	2019年2月	帝塚山大学現代生活学部紀要15	本稿では、障害児者福祉施設での施設実習において保育士養成課程の施設実習の目的がどの程度達成されているかを検討した。その結果、施設実習において学びを深める前提となる事案についてはある程度、達成できていることが明らかになった。その一方で、理解に至っていないいくつかの事案も明らかになった。保育士養成課程の施設実習は10日間という短い期間であり、この短い期間でどこまで深い学びができるかは事前指導が果たす役割が大きい。今回の調査結果は事前指導の内容に関して示唆を与えるものも多々あった。この結果をもとに事前指導の内容についてさらに検討を重ねる。p.71-78
6. 保育士の研修ニーズとこども学講座の今後のあり方（閲読あり）	単	2018年3月	帝塚山大学現代生活学部子育て支援センター紀要3	本稿は、平成29年度に実施した帝塚山大学現代生活学部子育て支援センターこども学講座の受講者アンケートから、受講者の概要と研修ニーズを把握し、今後の課題を明らかにすることを目的とする。今後「受けてみたい研修」としては、「障害のある子どもに対する保育」「保育の環境」などが多く、「健康及び安全」や「休日保育」は受けたいと答えるものが少なかった。受けてみたい研修と「保育経験年数」および「参加形態」をクロス集計してχ ² 乗検定を行った。その結果を参酌し、こども学講座のターゲットや広報、そして保育士の受けたい研修内容等、今後のこども学講座の課題を考察した。p.99-107
7. 保育士の「やる気」	共	2018年2月	帝塚山大学現代生	やる気尺度、バーンアウト尺度、セルフ・エフィカシー尺度、保育

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
尺度の開発 8. 保育図書に示された3歳未満児の遊びと保育に関する考察	単	2017年3月	活学部紀要14 帝塚山大学現代生活学部子育て支援センター紀要2	者就業環境尺度、リーダーシップ尺度、保育者個人特性尺度、フェ・エフィカシー尺度、保育者就業環境尺度、リーダーシップ尺度、保育者個人特性尺度の調査から、「やる気尺度」とその妥当性の検証に用いたバーンアウト尺度及びセルフ・エフィカシー尺度について述べた。p.15-24 3歳未満児の遊びをテーマにした保育図書9冊に掲載されている遊びの分析を行った。分析対象となった遊びどの年齢においても遊びの主導権が保育者にあり集団を志向する遊びが多く、遊びの主導権が子どもにある個人遊びは少ないという結果を得た。主導権が保育者にある遊び、集団志向の割合は年齢が上がるとともに上昇し、大人と子どもが1対1で行う遊びは、0歳が最大で、年齢の上昇とともに割合が減少した。保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育保育要領に基づいた子どもの発達に適した遊びの提供とは言い難く、3歳未満児の保育の現状の一端が窺えたp.59-68
9. 保育におけるオノマトベ表現の役割と有効性：遊び場面における幼児へのことばがけの分析	共	2017年3月	帝塚山大学現代生活学部子育て支援センター紀要2	保育士志望学生が、語彙獲得期にあたる1歳から3歳までの子どもとの遊び場面において表出したオノマトベとその文脈を分析した結果、次のようなオノマトベの表出傾向と機能が明らかになった。まず、具体的状況や動作が表現されているオノマトベは多く表出されるが、心情を表すオノマトベは表出されていなかった。また、女児よりも男児と関わる時のほうが多くのオノマトベが表出されていた。さらに、子どもの動作や行動に共鳴させる形でオノマトベが頻繁に表出されており、そのことが動作と音韻表象との結びつきへの気づきを促し、後に、動作と動詞語の恣意的な結びつきの理解へとつながることが示唆されたp.49-58
10. DVDを用いた子どもとの関わり記録作成の効果(5)つどいの広場での実習経験と保育所での実習経験の関係	共	2016年2月	帝塚山大学現代生活学部紀要12	平成26年度に、基礎演習Ⅱ(1年生時後期配当。この授業の概要等は、清水ら(2013, 2014, 2015)参照)を履修した者のうち、以下に述べるつどいの広場参加授業の事前指導後の調査、参加実習直後の調査及び事後指導後の調査に協力した100名の学生を対象とした調査から分析を行った。高等学校時代と大学入学後のどちらも、1つの組み合わせでは、関わった経験がない者の方が平均値が低かった。これらの結果は、関わった経験が「できる」という自信につながるという点で、清水ら(2015)と一致する。特に大学入学後の経験が大きいことを示した。p.95-104
11. 乳児保育研究に示された課題についての検討	単	2015年2月	帝塚山大学現代生活学部紀要11	乳児保育拡大期以前の、我が国における乳児保育開始から特別保育事業扱いでの実施を経て1995年の一般化に至るまでを一つの区切りとして先行研究のレビューを行った。その結果、先行研究が示す課題は、制度、保育内容、発達研究、保育実践の理論的裏付け、乳児保育の意義、保育の質、の6つのカテゴリーに分類された。p.95-102
12. DVDを用いた子どもとの関わり記録作成の効果(3)	共	2015年2月	帝塚山大学現代生活学部紀要11	平成25年度に、基礎演習Ⅱ(1回生時後期配当。この授業の概要等は、清水ら(2013)参照)を履修した者のうち、99名から得た調査結果を分析した。その結果、高等学校時代や1回生前期に、子どもとかかわる経験をすることが、「できる」という自信を持たせるのに役立つことが明らかになった。入学前に、ボランティア等の形で子どもとかかわる経験をすることや、1回生の夏休みに子どもとかかわる経験が有効であると考えられることもできる。p.85-94
13. 1歳児の保育における保育技術の活用傾向	単	2014年2月	帝塚山大学現代生活学部紀要10	グループ担当制と場所の担当制における保育技術の活用傾向から保育士の援助の検討を行った。その結果、両者間には大きな違いが認められなかった。少人数で行うグループ担当制であっても、保育士の援助は一斉活動型の保育と大きな違いがなく、少人数で一斉活動型の援助を行っている可能性が高いことが示唆された。保育形態を検討する際には、保育士の援助の方法についても同時に検討する必要があることを再確認する結果となった。。P.149-157
14. 児童福祉施設における保育士の保育相談支援(保育指導)技術の体系化に関する研究(1) - 保育所保育士の技術の把握と	共	2010年3月	日本子ども家庭総合研究所紀要 第46集	研究1: 保育技術の活用実態に関する研究をテーマとして担当。保育所保育士による保護者支援の際に用いられる保育技術を抽出し、整理を行った。保育所保育士の保護者支援においては、生活援助の技術や関係構築の技術が多用されていること、および活用される保育技術を整理し、保育技術の体系の一部を試案として示した。p.31-84 主任研究者: 柏女霊峰 研究担当者: 有村大志 研究協力者:

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
施設保育士の保護者支援－ 15. 「乳児保育」教授内容についてのテキスト項目の検討	単	2010年3月	大阪成蹊短期大学紀要 (7)	板倉孝枝、橋本真紀、伊藤嘉余子、西村真実、小清水奈央、山川美恵子、高山静子、天野珠路 p.33-41、p.57 2008年9月時点で実施されている乳児保育教授内容の把握を目的として、保育士養成課程用に編纂された「乳児保育」テキストの収集を行い、現在の教授内容をテキスト目次から分析し、現状の把握および課題について言及した。類型化の結果、41枚のラベルが13グループに分類された。各項目及びグループは、厚生労働省の標準シラバス内容(表1)とおおむね一致し、標準シラバスに記載される項目外のものも散見された。P.63-74
16. 保育士養成の今日的課題2－保育実習終了後の学生の抱く保育概念からの一考察－	単	2009年3月	大阪成蹊短期大学紀要 (6)	保育実習を終了した学生が抱く保育概念から、内容の類似性による分類を行い、保育の全体構造について試論を試みた。引き続き、仮説検証に向けた研究の推進が求められる。P.59-67
17. 保育士養成の今日的課題1－保育士養成課程在学生の抱く保育士像からの一考察－	単	2008年3月	大阪成蹊短期大学紀要 (5)	学生のイメージする保育士像から、学生の構えを捉え、保育士に求められる役割や実践力の涵養に必要な教科内容との乖離について考察を行った。特に保護者支援に関しては、保育士に強く求められる業務であるにもかかわらず、学生はネガティブなイメージを抱いており、保護者支援の手法や理論を明確化し、それらに関する教授内容に反映することが喫緊の課題と考えられた。P.57-65
18. 子育てネットワークと行政との関係に関する研究－エンパワメントプロセスからの分析	共	2008年2月	厚生の指標	行政が子育て支援を積極的に展開する上で、地域内の他機関連携が非常に重要とされる。NP0やサークルに代表される子育てネットワークは子育て支援を担う重要な社会資源である。これら子育てネットワークの全国調査結果から、特に行政との協働関係について、エンパワメントプロセスに沿って分析を行った結果、その現状と課題について明らかにした。著者：中谷奈津子、橋本真紀、西村真実。P.16-23
19. 延長型学童保育ニーズ実態と課題に関する研究	共	2007年3月	日本保健福祉学会誌 第13巻 第2号	長時間保育園利用者の就学後調査から、就学後における現状とニーズを明らかにすることを目的とする。調査結果の分析から、保護者の抱く現実的ニーズから3つの課題を導き、明らかにした。著者：西村真実、田中裕、酒井初恵、宮崎勝宣、篠原亮次、杉澤悠圭、丸山昭子、安梅勲江。P.19-27
20. 就学前後期における就労支援サービスの現状についての考察	単	2007年3月	奈良佐保短期大学研究紀要 第14号	長時間保育が一般化する現在、就学前期の就労支援サービスは充実が図られてきたが、就学後の就労支援は、まだまだ十分であるとは言いがたい。本稿では、長時間保育園利用者の就学後調査結果のうち、特に経済的負担に関する項目の内容分析から保護者の抱く現実的ニーズを明らかにし、具体的な課題を挙げ考察を行い、就労支援サービスにおいて特に就学後における現状とニーズを明らかにした。P.45-54
21. 子どもの発達の全国調査に基づく園児用発達チェックリストの開発に関する研究	共	2007年1月	厚生の指標	全国の保育園児の発達状態について実態を調査し、それに基づいた園児用発達チェックリストの開発を目的とする。全ての項目について、私案の序列に沿った形で10パーセントイル値、50パーセントイル値、90パーセントイル値が抽出され、基準月齢においても10～90パーセントイル値が確認された。信頼性は各項目で82.5%～97.9%であり、この園児用発達チェックリストの妥当性が示された。著者：安梅勲江、篠原亮次、杉澤悠圭、丸山昭子、田中裕、酒井初恵、宮崎勝宣、西村真実。P.36-47
22. 保育所における地域子育て支援事業の今後の展開に関する考察I	単	2006年3月	奈良佐保短期大学研究紀要 第13号	保育所は今日、地域子育て支援事業に貢献する役割を期待されている。その代表的なものは地域子育て支援センター事業が挙げられるが、多くの保育所では、この事業指定を受けないで、地域子育て支援を実施している。そういった保育所で実際に行われている活動の特徴を明らかにし、今後の課題について考察を行った。P.9-18
23. 保育所併設型地域子育て支援センターの現状と課題－A県下の地域子育て支援センター職員と地域活動事業担当者、保育所保育従事者との比較調査から－	共	2005年8月	保育学研究 第43巻 第1号	地域子育て支援センター事業の展開とともに派生してきた問題の要因の一つを、センター職員に求められる知識・技術と、実際に職員(保育士)が有する経験・知識との齟齬という点から、地域子育て支援センターにおける活動内容等について検討。地域子育て支援センターの現状と今後の事業展開の課題が明らかにされた。著者：橋本真紀、扇田朋子、多田みゆき、藤井豊子、西村真実。76-89

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 保育経験者が育児担当制による保育を体得するプロセス－保育士の語りに着目して－	共	2023年5月14日	日本保育学会 日本保育学会第75回大会	育児担当制未経験だった保育者が育児担当制実践を経験し、それを理解・体得するまでの過程と保育観の変容を明らかにすることを目的としてインタビュー調査を実施した。M-GTAを用いて分析を行った結果、保育経験者が育児担当制による保育を体得するプロセスは、4つのコアカテゴリーが生成された。25のカテゴリーと79の概念が把握された。発表者：西村真実、水枝谷奈央、土田珠紀、鎮朋子
2. 育児担当制と出会った保育経験者の保育実践に対する気づき	共	2022年12月4日	日本乳幼児教育学会 日本乳幼児教育学会第32回大会	インタビュー調査実施前に行った予備調査結果から、保育士が育児担当制による保育に適応するプロセスの概要を把握し、仮説を導き出した。ここで得た仮説は、は保育者が育児担当制による保育の特性の具体的内容を理解し、学び、実践を続けることで集団保育において、一人ひとりの子どもを尊重した保育が実現できる可能性を示唆した。発表者：水枝谷奈央、西村真実、土田珠紀、鎮朋子
3. コロナ禍における保育によって把握された育児担当制の特性	共	2022年5月14日	日本保育学会 日本保育学会第75回大会	2020年の新型コロナウイルス緊急事態宣言下での育児担当制実践について、園長主任を対象に行ったインタビュー逐語録をM-GTAによる分析を行った。その結果、緊急の状況下での特性と、普遍的特性を明らかにした。発表者：鎮朋子、西村真実、水枝谷奈央、土田珠紀
4. わが国における乳児保育と育児担当制の歴史的検討	単	2022年5月14日	日本保育学会 日本保育学会第76回大会	わが国の乳児保育の歴史的経過を概観し、育児担当制がわが国に紹介された経過を文献とインタビュー調査から明らかにした。育児担当制は、羽仁協子が1973年に招聘したハンガリー人研究者が紹介したことが端緒であるが、その目的は日本の保育園の「教育全体を見直すこと」であった。
5. コロナ禍における育児担当制による保育の展開	共	2021年12月18日	日本乳幼児教育学会 日本乳幼児教育学会第31回大会	2020年の新型コロナウイルス緊急事態宣言下での育児担当制実践について、園長主任を対象に行ったインタビュー逐語録をM-GTAによる分析を行った。そこで生成したカテゴリーとそれぞれの関連について明らかにした。発表者：鎮朋子、西村真実、水枝谷奈央、土田珠紀
6. 保育と音環境(2)	共	2021年5月15日	日本保育学会 日本保育学会第74回大会	本研究は保育施設においてどのような音環境のもとで保育が行われているかを把握するために、音環境の主観的評価と騒音の計測結果の分析を行った。その結果、保育室内で起きる「騒音」の主観的捉えは計器で計測された値と必ずしも一致しないことがわかった。発表者：岩淵善美、埋橋玲子、西村真実
7. 保育と音環境(1)－ECERSによる保育の質測定の観点から－	共	2021年5月15日	日本保育学会 日本保育学会第74回大会	本研究では、ECERS-3 を用いて保育の質の測定を行い、測定に当たったアセッサーの音環境についての気づきに注目し、分析を行った。その結果、音環境について保育の質の観点から最低限のレベルを割り込む結果が得られた。保育の場には一定の賑やかさがあり、子どもの活気ある姿はdB レベルで単純に騒音・非騒音と線を引くことになじまないものがある。発表者：埋橋玲子、岩淵善美、西村真実
8. 3歳未満児の保育における担当制保育の実施に関する研究Ⅲ	共	2021年5月14日	日本保育学会 日本保育学会第74回大会	本研究では、3歳未満児の保育において保育士が示す「担当制を実施する理由」と「担当制を実施しない理由」について包括的検討を進める。その結果から、特徴的な相違点は、以下の3点に集約された。「担当制を実施しない理由」に物理的条件が挙げられる点、次に「担当制を実施する理由」における「保育の方法」と「担当制を実施しない理由」における「保育士の置く価値」が、正に対照的であるという点、「担当制を実施する理由」にある「子どもの利益」と「担当制を実施しない理由」にある「子どもの利益」は、タイトルが同じでも内容は対照的である点である。発表者：西村真実、鎮朋子、土田珠紀
9. 保育と音環境「音」と保育(自主シンポジウム)	共	2020年11月14日	日本乳幼児教育学会 第30回日本乳幼児教育学会	保育所保育指針および幼稚園教育要領の記述から、子どもを取り巻く「音」の扱われ方に焦点を当てて考察を行った。「音」を物理的環境の一つとして捉えることの重要性を示唆した。
10. 3歳未満児の保育における担当制保育の実施に関する研究Ⅱ－担当制を実施する理由からの検討－	共	2020年11月14日	日本乳幼児教育学会 日本乳幼児教育学会第30回大会	本研究の目的は、3歳未満児の保育における担当制保育を実施する理由の経年比較から、担当制実施の今日的意義を検討することにある。担当制を実施する理由として「子どもの利益」に集約された表札は、1990年および2000年の先行研究において示された理由と重複が認められた。「保育の技術」、「保育の知識」においては、先行

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
11. 担当制実施についての保育士の見解 アンケート自由記述からの考察一	共	2020年5月16日	日本保育学会 日本保育学会第73回大会	研究といくらかは重複するものの、複数のサブカテゴリーは先行研究には示されておらず、2018年調査固有のものとなった。大カテゴリー「保育の構造」は、担当制を実施する理由として先行研究に挙げられたものはなく、2018年調査固有のものであると捉えられた。発表者：西村真実、鎮朋子、土田珠紀 本研究では、3歳未満児の保育において保育士が示す「担当制を実施する理由」について分析を行い、3歳未満児の保育において「担当制を実施する」意義を明らかにすることを目的とする。分析の結果、「子どもの利益」、「保育の技術」、「保育の知識」、「保育の構造」の4つのカテゴリーが生成された。これらは並列で存在するというよりも、むしろ関連を持ちながら存在するものと考えられた。発表者：西村真実、鎮朋子、土田珠紀、水枝谷奈央
12. 3歳未満児の保育における担当制保育の実施に関する研究 担当制を実施しない理由からの検討	共	2019年12月7日	日本乳幼児教育学会 日本乳幼児教育学会第29回大会	本研究の目的は、3歳未満児の保育において、担当制を実施しない理由についての経年比較から、担当制の実施を阻む要因を検討することにある。保育士が「担当制を実施しない理由」について、2018年度に得た結果と先行研究との比較からは、2つの性格が示された。一つは、1990年前後と2018年で共通する、つまりは「担当制を実施しない理由」が約30年前と変わらないものである。もう一つは、2018年にもみ把握された「現代的課題」ともいえるものである。発表者：西村真実、鎮朋子
13. 保育士が捉える担当制を行わない意義	共	2019年5月4日	日本保育学会 日本保育学会第72回大会	本研究では、3歳未満児の保育において保育士が示す「担当制を採用しない理由」について分析を行う。その結果を検討し、敢えて「担当制を採用しない」意図を明らかにすることを目的とする。分析の結果、担当制を実施しない理由は、「保育の構造」、「保育の方法」、そして「保育の理解」の3つのカテゴリーに集約された。発表者：西村真実・水枝谷奈央
14. 食事場における担当制による保育士の援助と子どもの主体的関与1	共	2018年5月20日	日本保育学会 日本保育学会第71回大会	本研究の目的は、0・1歳児の食事場面で担当制実施の有無による子どもの主体的行動に対する保育士の応答的対応の相違について検討を行うことにある。子どもの発信に対する応答は育児担当制で顕著に高く、子どもの発信に対する非応答は、非担当制で顕著に高いことが確認された。発表者：鎮朋子・西村真実・水枝谷奈央・土田珠紀
15. 食事場における担当制による保育士の援助と子どもの主体的関与2	共	2018年5月20日	日本保育学会 日本保育学会第71回大会	本研究の目的は、1・2歳児の食事場面で担当制実施の有無による子どもの主体的行動に対する保育士の応答的対応の相違について検討を行うことにある。子どもの発信に対する応答は育児担当制で顕著に高く、子どもの発信に対する非応答は、非担当制で顕著に高いことが確認された。発表者：西村真実・鎮朋子・水枝谷奈央・土田珠紀
16. 3歳未満児の保育における育児担当制の援助手法1	共	2017年5月20日	日本保育学会 日本保育学会第70回大会	本研究では、育児担当制における援助技術のさらに詳細な手法として共同注意に着目し、0歳児の生活援助場面で共同注意の成立について質的分析を行った。その結果、育児担当制での0歳児の食事場面においては、保育士が注意を向けている対象に子どもの注意を向けさせる型の共同注意よりも、子どもが興味関心を向ける対象に保育士が注意を向ける型の共同注意が頻回に成立していることが明らかになった。発表者：水枝谷奈央・西村真実・鎮朋子・土田珠紀
17. 3歳未満児の保育における育児担当制の援助手法2	共	2017年5月20日	日本保育学会 日本保育学会第70回大会	本研究では、育児担当制における援助技術のさらに詳細な手法として共同注意に着目する。特に1歳児の生活援助場面で共同注意の成立について質的分析を行った。その結果、育児担当制での1歳児の食事場面においては、保育士が注意を向けている対象に子どもの注意を向けさせる型の共同注意よりも、子どもが興味関心を向ける対象に保育士が注意を向ける型の共同注意の方が多く成立していることが明らかになった。発表者：西村真実・水枝谷奈央・鎮朋子・土田珠紀
18. 3歳未満児の保育形態による保育士の応答性に関する研究1	共	2016年5月7日	日本保育学会 日本保育学会第69回大会	本研究では、育児担当制とその他の担当制下で用いられる保育技術のうち、特に言語的技術に着目し、それらの活用の違いを明らかにすることを目的とする。この分析の結果、育児担当制とその他の担当制では、どちらにおいても大カテゴリー「発問」は少ない傾向にある。育児担当制とその他の担当制で顕著な違いが認められたのは「過程」で、育児担当制では「説明」に該当する言葉がけが頻繁に

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
19. 乳児保育の育児担当制における保育技術の活用に関する研究 2	共	2015年5月9日	日本保育学会 日本保育学会第68回大会	行われていた。発表者：西村真実・土田珠紀・水枝谷奈央 本研究の目的は、育児担当制とその他の担当制下で、保育士の援助に伴う子どもとの交流の頻度と継続時間を比較・検討し、子どもとの交流を伴う援助のあり方を明らかにすることにある。ここでは特に2歳児を対象とした保育場面の分析から、考察を進めた。2歳児の保育において、育児担当制ではそれ以外の担当制よりも頻繁に子どもとの交流が行われていた。発表者：西村真実・鎮朋子・土田珠紀
20. 乳児保育の形態と動作的保育技術の活用 2		2014年5月18日	日本保育学会 日本保育学会第67回大会	本研究の目的は、保育士の動作的援助と言語的援助の一致の度合いから、それぞれの形態下での保育技術の活用傾向を明らかにすることにある。ここでは特に2歳児に対する援助から保育士の援助の様態を明らかにする。育児担当制では、おしなべて言語、動作の出現度数は高いとは言いが、両者の一致の割合が高い。つまり育児担当制では、一人の子どもに対して言語と動作を一致させた援助が常態化していると推察された。発表者：西村真実・鎮朋子・土田珠紀・水枝谷奈央
21. 乳児保育の形態と動作的保育技術の活用 1	共	2014年5月18日	日本保育学会 日本保育学会第67回大会	本研究の目的は、育児担当制とその他の担当制下で、保育士の援助に伴う子どもとの交流の頻度と継続時間を比較・検討し、子どもとの交流を伴う援助のあり方を明らかにすることにある。ここでは特に1歳児を対象とした保育場面の分析から、考察を進めた。2歳児の保育において、育児担当制ではそれ以外の担当制よりも頻繁に子どもとの交流が行われていた。発表者：鎮朋子・西村真実・土田珠紀・水枝谷奈央
22. ゆるやかな担当制に見る保育技術の活用傾向	共	2013年9月6日	保育士養成協議会 保育士養成協議会第52回研究大会	本研究の目的は、「ゆるやかな担当制」と称される複数の保育実践について、保育形態の違いに着目し、それぞれの形態下で用いられる保育技術の活用傾向を把握することにある。動作による援助はグループ担当制で7割近く、場所の担当制でも5割近くを占め、それぞれの保育形態で最大を占めることが共通する。両者間に著しい差異は認められず、援助技術の活用傾向は類似していることが明らかになった。発表者：西村真実・鎮朋子
23. 乳児保育の形態による保育技術の活用傾向	共	2013年5月12日	日本保育学会 日本保育学会第66回大会	本研究の目的は、保育形態の違いによって保育技術の活用傾向を把握することにある。分析の結果、グループ担当制では、「動作」「言語」「視覚」の単独型の保育技術の出現率が高く、育児担当制ではグループ担当制に比べて「動作・言語」「動作視覚」等の混合型ともいえる保育技術の出現率が高かった。特に保育技術の3類型を網羅した「動作・言語・視覚」の出現率が顕著に高く、グループ担当制では顕著に低いという結果を得た。発表者：西村真実・鎮朋子・土田珠紀
24. 保育相談支援における展開過程に関する研究	共	2012年5月5日	日本保育学会第65回大会	長期的継続的に実施された保育相談支援事例インタビュー調査逐語録を分析し、展開過程の把握を試み、考察を行った。発表者：水枝谷奈央、橋本真紀、西村真実、高山静子、山川美恵子、柏女霊峰
25. 乳児保育で活用される保育技術の類型についての考察	共	2012年5月5日	日本保育学会第65回大会	乳児保育における保育技術の体系化に関する研究において把握された3つの類型を焦点化し、分析・考察を行った。発表者：西村真実、鎮朋子、水枝谷奈央、土田珠紀 分科会座長（諏訪きぬ氏）から、日本保育学会研究奨励賞への推薦を受けた。
26. 保育相談支援技術に関する研究—動作的援助に着目して—	共	2012年5月4日	日本保育学会第65回大会	保育所におけるお迎え場面の観察調査から、生活場面で行われる保育士の保育相談支援の特性を、動作的援助に視点を当て、技術の把握と分析を行った。発表者：鎮朋子、西村真実、水枝谷奈央、橋本真紀、高山静子、柏女霊峰
27. 保育士養成における乳児保育教授内容についての考察—保育技術に着目して②—	共	2011年9月9日	全国保育士養成協議会第50回研究大会	乳児保育における保育技術の体系化試案から、安心感の情勢に関わる技術を焦点化し、その内容と類型および養成課程での教授について考察を行った。発表者：鎮朋子、西村真実
28. 保育士養成における乳児保育教授内容についての考察—保育技術に着目して①—	共	2011年9月9日	全国保育士養成協議会第50回研究大会	乳児保育における保育技術の体系化試案から、安全確保に関わる技術を焦点化し、その内容と養成課程での教授について考察を行った。発表者：西村真実、鎮朋子
29. 乳児保育における保育技術の体系化に関する研究 I	共	2011年5月22日	日本保育学会第64回大会	保育士の固有業務である乳児保育に用いられる専門的技術について体系化を図るため、観察調査を実施した。ここでは、分析手法と結果概要についての報告を行った。発表者：西村真実、鎮朋子、山

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
30. 保育指導における保育技術の活用に関する研究Ⅱ	共	2010年5月23日	日本保育学会第63回大会	川美恵子、水枝谷奈央 先の報告に続いて、保育指導実践で活用されるより具体的な保育指導技術の把握を目的として行った分析結果から、5つの保育技術内の傾向と保育技術の活用に関わる様態の変化について報告を行った。
31. 保育指導における保育技術の活用に関する研究Ⅰ	共	2010年5月23日	日本保育学会第63回大会	前年度調査研究で収集した保育指導実践事例から、保育指導で活用される保育技術を把握することを目的として分析を行った。ここでは特に、保育指導における保育技術の活用傾向について報告を行った。
32. 保育士養成における「乳児保育」教授内容の検討－専門性習得に着目して－	共	2009年9月11日	全国保育士養成協議会第48回研究大会	保育士の専門性習得に向けた教授内容の検討に当たり、保育士独自の業務である乳児保育に焦点を当て、現行のテキスト内容から教授内容を把握し、その傾向と項目を厚生労働省標準シラバスとの比較において検討を行い、考察を行った。
33. 保育指導技術の体系化に関する研究Ⅰ－援助技術の類型化－		2009年5月16日	日本保育学会第62回大会	既述の調査結果から抽出された結果についての類型化を行った。類型化についての手順、内容、結果について分析とともに報告を行った。
34. 保育指導技術の体系化に関する研究Ⅰ－実践事例の検討－	共	2009年5月16日	日本保育学会第62回大会	保育士が行う保護者支援業務である保育指導について、その技術の体系化を図るため、全国調査を実施した。ここでは、回収した調査票の基礎データおよび分析手法についての報告を行った。
35. 保育士養成プロセスに関する－考察－保育実習を終了した学生の抱く保育者像から－	共	2008年9月27日	全国保育士養成協議会第47回研究大会	本研究では、2年間の養成期間の中で一定の専門知識を習得し、保育実習を終了した学生が抱く保育士像から、保育概念を導き出す。その上で、保育士の資質の涵養に必要な視座を探りながら、「保育」と「保育指導」を行う専門職である保育士の養成プロセスに関する考察を行った。
36. 「子育てネットワーク」活動における効果と課題－調査票における自由記述とインタビュー内容の質的検討	共	2008年6月29日	第15回日本子ども社会学会大会	「子育てネットワーク」活動を実施している先駆的事例の実践者への調査（自由記述）とインタビュー調査の結果をKJ法および内容分析を用いて分析し、実践者が実感する効果および課題意識について検討を行った。
37. 「根拠に基づく保育」の推進に向けた「気になる子」への保育支援プロセス2	共	2008年5月17日	日本保育学会第61回大会	先の発表から、現在、保育現場でも関心の高い「気になる子」の評価ツールとその内容を提示し、今後の活用への課題をあわせて提示した。
38. 「根拠に基づく保育」推進に向けた発達・育児環境・保育環境ツールの活用	共	2008年5月17日	日本保育学会第61回大会	保育実践を行う際に明確な根拠を位置づけることが、今後の保育の質の向上を目指す上で、非常に重要である。保育評価ツールの活用によって、明確な根拠を得て、より有効に実践に活用することが求められる。ここでは保育評価に用いる3つのツールを提示し、解説を行った。
39. 「根拠に基づく保育」の推進に向けた「気になる子」への保育支援プロセス1	共	2008年5月17日	日本保育学会第61回大会	保育実践を行う際に明確な根拠を位置づけることが、今後の保育の質の向上を目指す上で、非常に重要である。その根拠を得るための保育評価ツールの開発過程と活用の可能性を提示した。
40. 保育の質の向上に向けた現任者研修プログラムの推進Ⅱ	共	2007年9月14日	全国保育士養成協議会第46回研究大会	既述の報告から、実際に保育評価ツールを用いて行う保育実践を具体的に例示しながら、現状と課題を提示した。
41. 保育の質の向上に向けた現任者研修プログラムの推進Ⅰ	共	2007年9月14日	全国保育士養成協議会第46回研究大会	保育の質の向上に向け、現任者のリカレント教育は必須である。保育の質の向上には保育評価が不可欠であり、リカレント教育において保育評価指標を明示し、保育課題を導くことが重要であることを示唆するとともに、現在実施されている保育評価ツールを用いた研修システムを紹介。
42. 幼児期の子育ち環境が学童期の心身の健康に及ぼす影響に関する実証研究	共	2007年5月19日	日本保育学会第60回大会	長時間保育を経験した子どもと保護者の追跡調査結果の分析から、乳幼児期に長時間保育を経験した子どもの学童期の発達および心身の状態を把握し、乳幼児期の子育ち環境つまり現在の保育環境に対して課題を提示した
43. 子育てネットワーク組織の特徴Ⅱ－活動類型にみた組織特性－	共	2007年5月19日	日本保育学会第60回大会	既述の報告から、子育てネットワーク組織を活動形態から分析を実施し、類型化したそれぞれのグループについて、その組織特性を明らかにした。
44. 子育てネットワーク	共	2007年5月	日本保育学会第60	子育てネットワークと称する組織の全国調査結果をその活動内容か

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
組織の特徴Ⅰー活動内容による類型化ー		19日	回大会	ら分析を実施し、類型化を行った。その結果現れた各類型の活動特性を明らかにした。
45. 子育てネットワークに関する調査結果報告Ⅱ～特別なニーズを持つ子どもとそのネットワーク～	共	2006年7月1日	第13回日本子ども社会学会	既述の報告から、「特別なニーズを持つ子ども」を対象とする組織と対象としない組織のネットワーク活動に対する指向について報告を行った。
46. 子育てネットワークに関する調査結果報告Ⅰ～その活動傾向～	共	2006年7月1日	第13回日本子ども社会学会	「子育てネットワーク」は全国的に展開され、また今後の子育て支援事業の展開において一定の役割を担うと目されている。現在の実践の中から「子育てネットワーク活動」とは何を指すのかを明らかにするため第一段階として行った全国調査の結果から、それらの特性について報告を行った。
47. 子育てネットワーク実態調査報告Ⅱ～子育てネットワークと行政との関係を中心に～		2006年5月20日	日本保育学会第59回大会	先述の報告に基づき、「子育てネットワーク」の実践者が捉える「子育てネットワーク活動」と、それら活動におけるエンパワーメントプロセスや市民参加の程度を行政からの援助を視野に入れて報告を行った。
48. 子育てネットワーク実態調査報告Ⅰ～子育てネットワークの活動内容の実態を中心に～	共	2006年5月20日	日本保育学会第59回大会	「子育てネットワーク」は全国的に展開され、また今後の子育て支援事業の展開において一定の役割を担うと目されているが、実際にその活動形態や内容および特性が把握されているとは言い難く、それらの把握を目的とした調査の結果から、特に活動内容の実態を中心とした報告を行った。
49. 保育所併設型地域子育て支援センターの現状と課題～A県下の地域子育て支援センター職員と地域活動事業担当者、保育所保育従事者との比較調査から～	共	2004年5月16日	日本保育学会第57回大会課題研究委員会企画シンポジウム	地域子育て支援センター事業の展開とともに派生してきた問題の要因の一つを、センター職員に求められる知識・技術と、実際に職員（保育士）が有する経験・知識との齟齬という点から、地域子育て支援センターにおける活動内容等について検討。地域子育て支援センターの現状と今後の事業展開の課題が明らかにされた。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 西宮市公立保育所における保育評価指標 幼児保育版	共	2014年3月	西宮市受託研究	西宮市受託研究「西宮市公立保育所における保育サービス評価指標とシステムの検討」によって作成した、西宮市公立保育所保育士が自己評価に用いる保育評価指標の幼児保育版。本指標は、保育実践場面の観察と所長・副所長へのヒアリングと保育実践者の記述から西宮市公立保育所の独自性を重視し作成したものである。
2. 保育士の専門的技術の体系化に関する研究	共	2012年3月	財団法人こども未来財団	2011年度児童関連サービス調査研究等事業。前年度に実施した「乳児保育における保育技術の体系化に関する研究」の継続研究として実施。保育士の専門性の構成要素である保育技術を明確化することを目的とし、私立保育所における3歳未満児の保育場面観察から保育士の技術を抽出し、内容の類似性に基づいて類型化を行った。その結果7つの保育技術類型と、それらに属する39の保育技術および84の下位項目が明らかになった。保育技術には、それぞれに共通する4群があり、その4群はさらに2系統に類別された。主任研究者：西村真実 分担研究者：鎮朋子、水枝谷奈央 研究協力者：土田珠紀、増田まゆみ
3. 西宮市公立保育所における保育評価指標 乳児保育版	共	2012年3月	西宮市受託研究	西宮市受託研究「西宮市公立保育所における保育サービス評価指標とシステムの検討」によって作成した、西宮市公立保育所保育士が自己評価に用いる保育評価指標の乳児保育版。本指標は、保育実践場面の観察と所長・副所長へのヒアリングと保育実践者の記述から西宮市公立保育所の独自性を重視し作成したものである。
4. 乳児保育における保育技術の体系化に関する研究		2011年3月	財団法人こども未来財団	2010年度児童関連サービス調査研究等事業。保育士の専門性の構成要素である保育技術を明確化することを目的とし、3歳未満児の保育場面観察から保育士の技術を抽出し、内容の類似性に基づいて類型化を行った。その結果、6つの類型とそれぞれに属する合計30の保

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
5. 保育指導技術の体系化に関する研究報告書	共	2009年3月	財団法人こども未来財団	育技術と68の下位項目を把握した。さらに、保育士の援助には言語的援助、動作的援助、視覚的援助の3つの類型があると考察された。 主任研究者：西村真実 分担研究者：鎮朋子、山川美恵子、水枝谷奈央 p.1-101、p.108-126
6. 保育士の「やる気」の維持・継続性に関する調査研究報告書	共	2009年3月	財団法人こども未来財団	2009年度こども未来財団児童関連サービス調査研究事業（主任研究者・柏女霊峰）。共同研究者。保育士資格の国家資格化後、児童福祉法上に規定された保育士の業務である保育指導（保護者支援）について、保育指導技術という側面から体系化を試みる研究。主任研究者・柏女霊峰 分担研究者：橋本真紀、西村真実、高山静子 研究協力者：小清水奈央、山川美恵子 p.3-7、p.35-37、p.64-69、p.80-82
7. 地域子育て支援の推進にかかわる住民主体活動の果たす役割に関する研究	共	2007年3月	大阪市立大学社会学部福祉学研究室	2009年度こども未来財団児童関連サービス調査研究事業（主任研究者・埋橋玲子）。保育の質の向上には、保育実践者である保育士のやる気が大いに影響する。質の高い保育の実現のために、保育士のやる気に影響する要因や阻害要因を明らかにし、それらの評価を行うスケールの開発までを視野に入れた調査研究。主任研究者：埋橋玲子 分担研究者：清水益治、西村真実 p.80-84 2005年度文部科学研究（主任研究者・大阪市立大学教授山縣文治）。地域子育て支援の推進にかかわる住民地域主体活動のうち、子育てネットワーク活動に焦点を当て、さまざまな用途で用いられる「子育てネットワーク」活動の概念整理および幾つかに類型化されるそれぞれの活動特性を明らかにし、整理を行った。主任研究者：山縣文治 研究協力者：相戸晴子、越智紀子、近棟健二、橋本真紀、金山千広、中谷奈津子、西村真実、辻宣江 p.5-10、p.100-101
6. 研究費の取得状況				
1. 小規模保育施設の建築計画と園外活動を支える都市環境のあり方に関する研究	共	2022年4月1日～2026年3月31日	日本学術振興会	基盤研究(B) 研究課題/領域番号 22H00995 研究代表者 辻川ひとみ(帝塚山大学)
2. 「音と声」に注目した保育者研修プログラム—ECERS及び音環境調査に基づいて—	共	2018年4月1日～2021年3月31日	日本学術振興会	基盤研究(C) 研究課題/領域番号 18K02467 研究代表者 埋橋玲子(同志社女子大学)
3. 保育士の専門的技術の体系化に関する研究	共	2011年5月20日3	財団法人こども未来財団	2011年度児童関連サービス調査研究等事業 主任研究者
4. 乳児保育における保育技術の体系化に関する研究	共	2010年5月～2011年3月	財団法人こども未来財団	2010年度児童関連サービス調査研究等事業 主任研究者
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			
1. 2010年～現在に至る	日本乳幼児教育学会			
2. 2003年6月～現在に至る	日本子ども家庭福祉学会			
3. 2003年～現在に至る	日本保育学会 会員			